



ファウンテン・デリ株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年3月1日 ~ 2024 年2月29日)



作成日： 2024年4月1日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要	4
認証・登録の対象組織・活動	4
業や製品(商品)の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	7
工場の取組紹介	10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
外部からの環境上の苦情・要請等	11
急事態対応の試行・訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	13



経営理念

W I L L

志あるところに道あり

おごらず高ぶらず、感謝の気持ちを大切にして、「志」高くして努力を積み重ねる

＜しなやかな人材たれ＞

お客様へ利益と満足を提供し、地域社会・国際社会での役割を果たす

＜社会と共生する企業たれ＞

1年365日いかなる状況においても、社会の安定と更なる発展・可能性に向かって

＜挑戦し続ける集団たれ＞

環境経営方針

＜環境経営理念＞

ファウンテン・デリ株式会社は事業活動を通じて、地球環境保全に積極的に取り組み、社会の安全と幸せの増進に貢献します。

安心・安全な製品をお客様に届けるため、働きやすい職場づくりを進める中で、創意工夫による衛生管理の徹底と効率的な生産を目指して、全社一丸となって環境経営の継続的な改善活動に取り組んでまいります。

＜環境保全への行動指針＞

- 1 . 企業理念に基づいて、環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 具体的な省エネ活動を推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 廃棄ロス削減、廃棄物の発生抑制を行い、食品リサイクル率の維持向上に努めます。
- 4 . 浄化方法の改善により放流水の水質向上を図り、水使用量の削減に努めます。
- 5 . 環境に優しい洗浄剤等を積極的に採用し、洗浄剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
- 6 . 健康で豊かな社会実現に向けて、お客様へ安心・安全で美味しい商品の提供を誓います。
- 7 . 事業活動に伴い、環境関連法規等を遵守します。
- 8 . お客様に利益と満足を提供し、地域社会・国際社会での役割を果たす。
- 9 . 地域や関係団体の環境活動に、積極的に参加します。

制定日：2020年7月2日

代表取締役社長 泉 千恵

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

ファウンテン・デリ株式会社
代表取締役社長 泉 千恵

(2) 所在地

本社・工場 福岡県古賀市鹿部335番27

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部長 姫野 慎五
担当者 生産部工務 栗原 正臣

TEL : 092-944-0417

Email kanri@f-deli.co.jp

(4) 事業内容

コンビニエンスストア向けのおにぎり、弁当、寿司、パスタ等の製造・開発。

URL <http://www.f-deli.co.jp>

(5) 事業の規模

売上高 3,858 百万円

本社・工場

従業員 名 390 名

延べ床面積 m² 3,626 m²

※事務所195m²と工場3431m²の合算面積。

(6) 事業年度

3月1日～2月28日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： ファウンテン・デリ株式会社

対象事業所： 本社・工場

対象活動： コンビニエンスストア向けのおにぎり、弁当、寿司、パスタ等の製造・開発。

対象外組織・活動： なし（全組織・全活動を対象とする）

□事業や製品(商品)の紹介

いつもの、おいしいに、こころを込めて。

ファウンテン・デリは、
国内最大手コンビニエンスストアのデイリーベンダーとして、
商品製造と、新商品開発を行なう、総合食品企業です。



About FOUNTAIN DELI

✓ 品質、開発、管理万全！業界最大手コンビニからの絶対的信頼を得た100%指定工場です。

✓ 1日8～9万食、週末は12～13万食。
常温商品 北部九州エリア450店舗・チルド商品 九州全2200店舗。

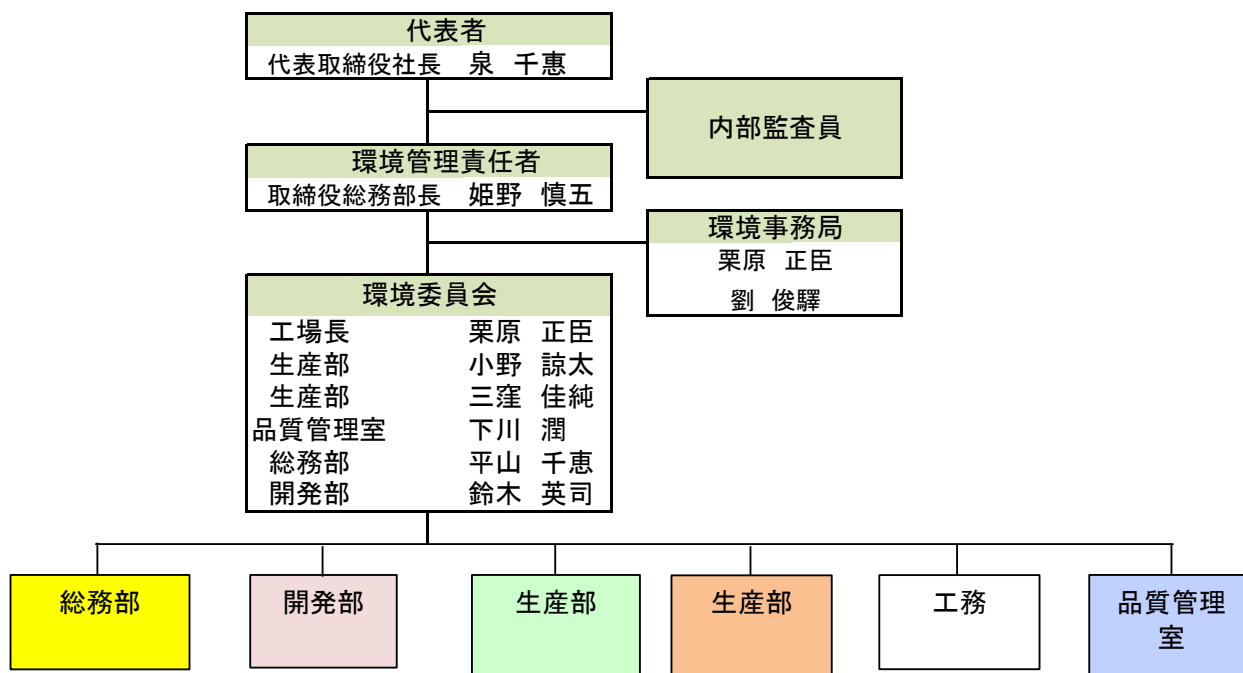
✓ ヘルシーで安心・安全でおいしいはもちろんのこと、こころをこめて「美しく」「きれい」に仕上げます。

✓ 高品質なものづくりは、HACCPの認定を受けたピッカピカの工場
で、皆で力をあわせてつくりあげます。

✓ 日本・中国・ネパール・ベトナム…、グローバルな人材一人一人が重要な役割を担っています。

✓ 従業員全員が高い意識と、挑戦する勇気を持って、たゆまぬ努力を続けています。

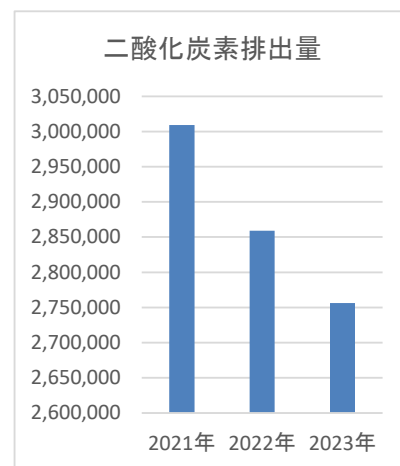
□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
環境委員会	・環境経営計画の審議（毎月） ・環境活動実績の確認・評価（毎月） ・問題点に対する是正策の決定（都度）
各部署長 工場長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査員	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	3,009,137	2,859,105	2,756,171
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	159	135	135
産業廃棄物排出量	t	600	607	519
食品廃棄物				
発生量	t	389.138	406	353
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		389.138	406	353
熱回収量		0	0	0
減量量		0	0	0
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100%
水使用量	m ³	104,436	103,198	104,310
	C02排出係数	0.392	0.475	0.453
	電力会社	新出光	新出光	九州電力
	採用年度	2018	2018	2022



※上記数値には、「ガソリン」と「軽油」の使用量が含まれます。

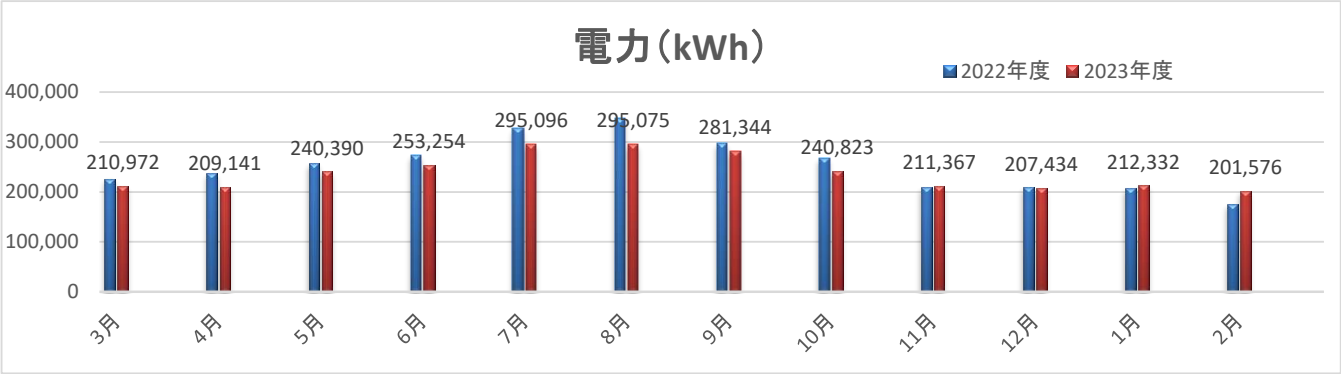
□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		基準値	2023年度		評価	2024年度	2025年度
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,391,004	1,377,094	1,295,038	○	1,363,184	1,349,274
	基準年度比	2022年	99%	93%		98%	97%
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,461,540	1,446,925	1,454,394	×	1,432,309	1,417,694
	基準年度比	2022年	99%	100%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	2,852,544	2,824,019	2,749,432	○	2,795,494	2,766,968
廃プラの削減	kg	188	187	151	○	185	183
	基準年度比	2022年度	99%	80%		98%	97%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標	80%	80%	100%	○	80%	80%
	食リ法目標	2007年	80%	100%	○		
	基準発生原単位	kg/百万円	224	224	91.5	○	
水使用量の削減	m ³	103,198	102,166	104,310	×	101,134	100,102
	基準年度比	2022年	99%	101%		98%	97%
化学物質の適正管理	行動目標(次項による)						
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

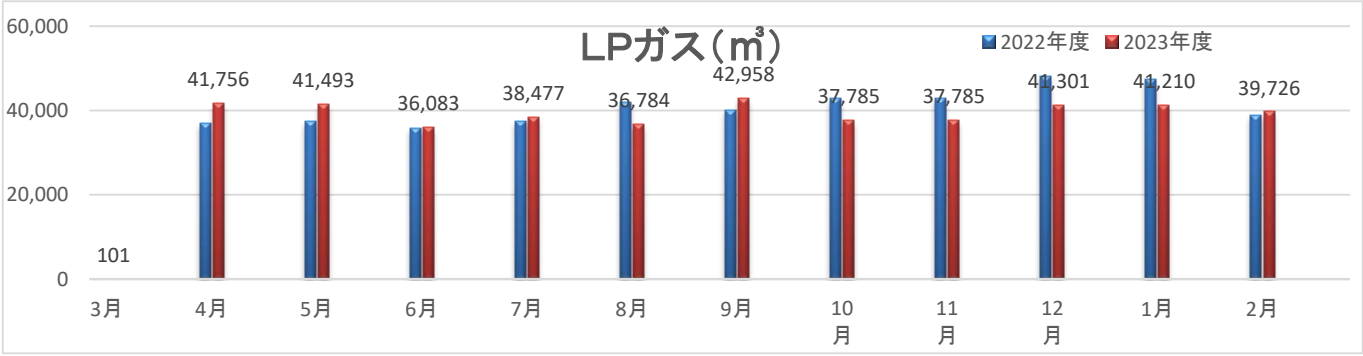
数値目標：○達成 ×未達成
 活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2023年度は、使用量削減目標は達成出来たが、売上が前年比91.5%まで下がっているため原単位は未達の結果。(冷蔵庫と空調の固定費が影響) 夏季に取組んだピークデマンド100kW削減は、電気基本料金を12万円/月削減を達成。この原資を来期の設備投資に補填する。
・LED照明器具への切替(工場残り70%エリア)	○	
・夏季対策で空調機の室外機への散水	○	
・製造終了後の給排気ファン停止の徹底	○	
・デマンド監視システムによる節電・省エネ	△	
・空気圧縮機のエア洩れ点検・圧力低減	△	



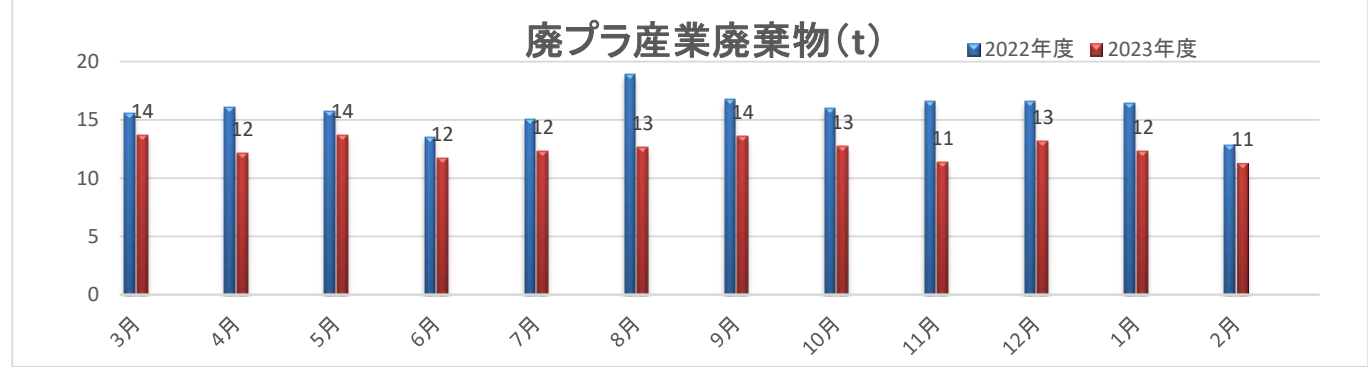
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年度	226,360	237,288	256,775	274,050	327,341	348,222	297,331	267,275	209,578	209,578	207,570	174,172
2023年度	210,972	209,141	240,390	253,254	295,096	295,075	281,344	240,823	211,367	207,434	212,332	201,576

LPガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	ボイラ3台の蒸気を集結させる「蒸気ヘッダー」のドレン配管からの蒸気が漏れは、埋設配管なので発見が遅れてしまった。ガスに関しては、計測機器が2箇所と少なく異常箇所の絞り込みが出来ず、調査に時間を要した。 埋設の蒸気配管は、ボイラの2系統だけなので、日常点検項目に入れて早期発見出来る様に改善。 今期はガスマシンのバーナー調整等がボイラ以外未実施の為、来期点検と調整を行う。
・ガスと空気比適正化	×	
・蒸気・冷温水配管の保温強化	△	
・温冷水温度の適正化	○	
・給湯器の一部停止	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年度	34	36,904	37,418	35,728	37,520	41,906	40,184	43,040	43,040	48,234	47,443	38,852
2023年度	101	41,756	41,493	36,083	38,477	36,784	42,958	37,785	37,785	41,301	41,210	39,726

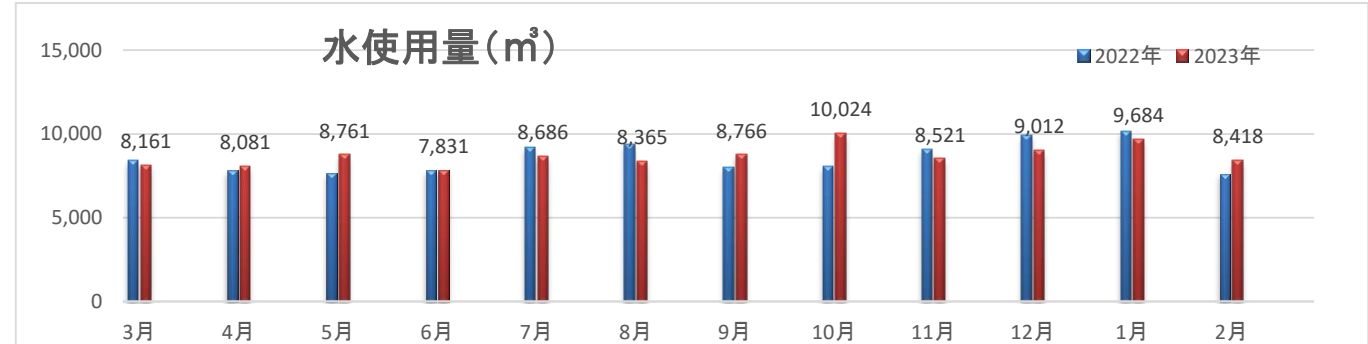
廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	売上前年比91.5%に対して廃プラ廃棄量は80.3%まで削減。新たな取組はありませんが、目標達成手段を継続していく中で精度アップしている事が確認出来た。来期までは、既存の取組の継続で更なる削減を目指す。 2年後位を目安に、減容設備導入の準備に入る。 来期は、粘着ローラーなど日々使用する道具の再選定を行う。(ゴミが出ないタイプや簡易包装に更新)
・包材発注量の精度アップ	○	
・包装不良の削減	○	
・分別の徹底	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年度	16	16	16	14	15	19	17	16	17	17	16	13
2023年度	14	12	14	12	12	13	14	13	11	13	12	11

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	食品残さの発生量は、昨年対比85%を達成。継続取組は、各工程から発生するロス削減と、製造ミス・トラブルの発生件数削減。重大事故による店頭商品の売場撤去(回収事故)は、今期も0件を達成。補助金を活用して新規油ろ過機を10月度に導入。油の酸化し難くなった事で、油の購入量が約40~50%削減を達成。 又、絶対的安全・安心の確立を進める為に、7月より「誤投入防止システム」を新規導入。今期は2ラインで運用を定着させたので、来期は全ラインに展開する予定。 2026年までに、処理能力500kg/日の減容設備導入出来る様、来期は選定と補助金申請を行う予定。
・原材料発注量の精度アップ	○	
・在庫管理の強化と他工場と連携し終売品を低減	○	
・予測数過多による廃棄低減	△	
・再資源化先の開拓	△	
 ←誤投入防止システム		

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今期は目標+2%の未達。 工場クリンネス強化で、清掃内容と清掃頻度を3月度に実施しています。日々のサニテーションで使う水の使用量は、10%程増加しています。 この分は、必要な物ですが、機械の故障、埋設配管の不具合処理で垂れ流しになった水に関しては、来期対策を講じる。
・洗浄機の定期メンテナンス	○	
・水の流しっぱなし削減	△	
・節水蛇口への切替	×	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	8,395	7,824	7,664	7,824	9,196	9,389	8,023	8,078	9,105	9,927	10,150	7,623
2023年	8,161	8,081	8,761	7,831	8,686	8,365	8,766	10,024	8,521	9,012	9,684	8,418

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの実施	○	継続して活用している電解水に加えて、今期新たに過酢酸を殺菌用で採用。どちらも使用後は水に戻るので、環境負荷も低い。次亜塩素酸Naと洗剤の代替品として器具や機械類の洗浄と殺菌で使っている。 洗剤類は全て、適正な希釈濃度で使われる様に希釈装置を設置しています。
・有害性物質の表示の徹底(蛍光灯の水銀)	○	
・従業員教育	△	
・代替物質の検討	△	



電解水生成器



器具洗浄機の希釈装置



アルカリ洗剤の希釈装置

環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・配送トラック台数削減	○	取引先企業と連携して、お弁当等に使用するプラ削減で、カップ・バラン等を原則廃止した。但し、チルド弁当に関しては、中皿有の製品が多い為、逆に廃プラ増になっている。フィルムで具材どうしの接触を防ぐ仕様への切替出来ないか働きかけを行う。 顧客クレームは目標の0.4PPM以下に対して0.2PPM未満を達成。
・消費期限+4日商品の推奨	×	
・ロングセラー商品の開発	×	
・顧客クレーム削減	○	

- 容器の無着色に変更、バランやカップも一切使用しない商品に規格を変更。
一部の製品で、ご飯と具材を分けるカセット容器と、中皿仕様については、改善が必要。



工場の取組紹介

●油使用量の削減、廃プラ削減の取組

- ①食品原材料調達安定化対策事業の補助金を活用して、10月に新型油ろ過機に入替えを行った。
既存の運用方法もみなし、特殊フィルター等を使用して油の酸化を抑え、脱色も行い使用期間の延長の取組を行った。
効果は、メーカー見解とおり廃油の量が半分(購入量も半分)まで削減出来た。



ろ過前→ろ過後の油
酸価値1.5 → 0.7



新規油ろ過機

②廃プラの削減

ラップの使用量を1食当り15%削減を達成。
新規包装機に更新した事で、ラップのサイズを幅20mm×長さ30mmまで削減する事が出来た。



●夏季電力使用量の削減

外気温度が高い程、電力使用量が増える対策として、冷蔵庫と空調機器の室外機への散水と直射日光を防ぐ遮光ネット(それまではよしず)を新たに新設。

水の使用量を考慮して、タイマー付きバルブを5箇所に設置。開始と停止、10分停止2分散水する間欠散水を継続実施。



タイマー付きバルブ



散水機



遮光ネット

●地震対策

弊社には、大勢の外国籍従業員達が勤務しています。全従業員が災害発生の際、安全に避難出来る様に年4回程訓練を実施しています。又、本年度は工場内の全ての棚に、棚が転倒しない様に「転倒防止突っ張り棒」を取付けています。



★地震を想定した、防災訓練を行います★

11月16日(木)9時

南海トラフ地震(震度6)が発生があったと想定
社員が各部署で点呼を行いますので、ご協力ください。

- ・当日は、地震が発生したことを想定した放送を行います
- ・出勤者は全員対象です。各現場その場での点呼となります。
- ・屋外の避難は行いません。

防災訓練の案内



転倒対策

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用	適
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
毒物及び劇物取締法	・盗難／漏洩防止・容器、貯蔵場所に表示・事故・盗難時届出（警察など）
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

外部からの苦情等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：油流出事故の発生	
■実施日：2023年8月8日	■実施場所：新油タンク
■参加者：工務2名、SNTチーム3名、惣菜社員1名	■実施内容：新油納品時に油がオーバーフロー。 ・油流出事故が発生した際の流出防止対応の訓練
■評価：工場敷地外に流出させない対処方法を、参加者全員が確認出来た。	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
油の流出量で対処方法を3段階に変える必要がある事を、現地で確認した。 ①レベル1：防御フェンス内に油が流出 ⇒油吸着マットで油を回収する。 ②レベル2：工場敷地内に油が流出 ⇒雨水溝のグリストラップを閉鎖して油流出を防ぐ。 ③レベル3：屋外まで油が流出 ⇒貯水池の流入口にオイルフェンスを設置して油の拡散を防ぐ。	

■実施状況の様子

※②③の場合、流出した油はポンプで浄化槽に回収する。



水中ポンプと移送ポンプの確認



オイルフェンス



新油タンク

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定: 火災の発生	
■実施日: 2023/10/24PM3:30、11/21AM0時	■実施場所: 事務所・工場全体
■参加者: 日勤74名、夜勤67名、社員は計29名が参加	
■実施内容: ☒ 通報訓練 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 ☒ 安否確認訓練 ①夜間に避難する状況が発生した際に問題点が無いか確認する。②外国籍従業員の避難方法の理解度を確認。基本的な知識（標識の意味、消火器と消火栓の使い方）火災発生時の初期消火と避難について勉強会を実施。	
■評価: 今回は問題なし。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし

■実施内容

1、避難所への誘導・経路確認



2、安否確認



3、通報訓練



安否確認メール画面→
※外国語変換もワンクリックで可能

安否報告

本人の安否 必須

☐ 無事
☐ 軽傷
☐ 重傷
☐ コメント欄へ

出社見込み 必須

☐ いつでも可能
☐ 2、3日以内
☐ 1週間以内
☐ 見通し不明
☐ コメント欄へ

コメント

状況の詳細や連絡先など

実施日： 2024年3月20日

【見直し・指示】

今期の二酸化炭素排出量は、前年比96%と目標を達成していますが、ガスに関しては目標未達の為、更なる取組が必要です。工場施設も老朽化が進んでいるので、蒸気漏れ、減圧弁・スチームトラップの故障が無い様に、日々の点検継続をお願いします。

【年間の評価】

コロナ感染症が5類に移行され、行動制限の緩和や外国からの渡航が可能になったメリットで、従業員の採用などが改善された1年でした。

今後も物価は高騰し続ける。弊社においては、システムを活用して業務の効率を上げ続け、結果、経費を削減して利益を確保し、CO2排出量の削減も計画に遅れが出ない様に取組を継続する。

社会全体を含めて環境への取組は年々強くなっており、取引先のセブンイレブンも『グリーンチャレンジ2050』の活動を更に推進しており、ますます環境経営の役割が大きくなっていることを実感しています。

全従業員が参加した環境経営システムの運用に向けて、継続して事務局メンバーを中心に取り組んでいきます。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり